



◇ 日に十五分間 ◇

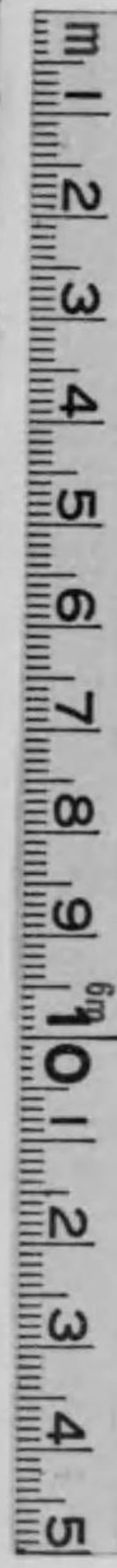
近世哲學の大宗スベンサー氏は、多忙の銀行家なりき、彼曰く、何人も一日に十五分位の餘暇はあるべき等なり。此十五分間を以てホメロの古典を讀めば、一年にしてオデッセイ全卷を讀破し得べしと。

◇ 大學に遊ぶに等し ◇

書は、種々の理由より讀むべし。慰藉の爲め、娛樂の爲め、消閑の爲めなど、皆よし、書を読みて時を移すは、如何はしき樂に耽ると孰れぞや。書の何たるは、必ずしも問はざるなり。然れども今の世の讀書は、知識を得ん爲めにするが眼目なるべし。

余が如きは、既往二十年多忙の職業に在り。業の餘暇は即ち種々の道樂に追はれ、讀書の人たるを得ざりしかども、我家に在る時間は、手より書籍を離すこと能はず。明治二十三年の末の計算によれば、明治十七年より滿五ヶ年の間に、英書一千冊(精讀)を讀みたり。多くの利益を得たりとは稱し難きも、若し讀書すること無かりせば、新聞記者中に身を置くこと能はざりしならん。

カライル曰く「余の町に於て眞正の大學校は、書籍の集積なり」と。眞に然り。書籍の集積の中に遊ぶは、大學に遊ぶにも比すべきものならん。躬づから大學に在る能はざる人は、讀書を以て償はんことを、勉むること宜しけれ。 (同前)



始



六月館内閱覽統計表

閱覽人員最高最低

最高 六日 日曜日 晴 八三三人
最低 廿八日 月曜日 晴 五〇七人

職業別	分	閱覽種類									合計	日平均														
		第一類	第二類	第三類	第四類	第五類	第六類	第七類	第八類	第九類																
		總計	哲學	宗教	文學	歷史	地誌	統計	經濟	政治			醫學	工業	美術	農業	交通									
學 生	男	六八八	一〇〇	二二〇	一三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
職 業 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
官公吏軍人	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
宗 教 家 教 育 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
記 者 著 述 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
無 職 業 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
外 國 人	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
計	男	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三
女	女	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
計	計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
男	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
女	女	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
計	計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	

六月館外閱覽統計表

館外圖書携出閱覽人員別

最高 六日 日曜日 晴 八三三人
最低 廿八日 月曜日 晴 五〇七人

職業別	分	閱覽種類									合計	日平均													
		第一類	第二類	第三類	第四類	第五類	第六類	第七類	第八類	第九類															
		總計	哲學	宗教	文學	歷史	地誌	統計	經濟	政治			醫學	工業	美術	農業	交通								
學 生	男	六八八	一〇〇	二二〇	一三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
職 業 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
官公吏軍人	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
宗 教 家 教 育 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
記 者 著 述 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
無 職 業 者	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
外 國 人	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
計	男	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三	二二三
女	女	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
計	計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
男	男	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
女	女	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
計	計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	

入館兒童學校別調

公正十五年六月

入館數	小學校名	入館數	小學校名
一七八	小松	二一	吉野
一一七	小松	一八	南久屋
一〇九	小松	一八	旗
一〇九	小松	一五	愛知
一〇九	小松	一五	門前
一〇九	小松	一〇	葵
一〇九	小松	一〇	白川
一〇九	小松	一〇	熱田
一〇九	小松	一〇	津
一〇九	小松	一〇	早
一〇九	小松	一〇	田
一〇九	小松	一〇	子
一〇九	小松	一〇	波
一〇九	小松	一〇	三
一〇九	小松	一〇	高
一〇九	小松	一〇	下
一〇九	小松	一〇	島
一〇九	小松	一〇	川
一〇九	小松	一〇	波

以上市内小學校計六十六校、其入館兒童數五千六百一十一名、其他尋常科卒業の者、中一、二年、未就學の者、市外兒童等合せて五百五十名である。

入館兒童學年別調

公正十五年六月

學年	男	女	合計
一、二年	一〇〇	一〇〇	二〇〇
三、四年	一〇〇	一〇〇	二〇〇
五、六年	一〇〇	一〇〇	二〇〇
七、八年	一〇〇	一〇〇	二〇〇
九、十、十一年	一〇〇	一〇〇	二〇〇
合計	一〇〇	一〇〇	二〇〇

大正十五年六月中新刊圖書十七種

愛知縣立第一圖書館 編輯部 編輯

寄贈圖書

自十五年六月一日起

主稅局第五十一統計年報書 三
愛知縣年表 三
租税法規外一
博覽會外一
長崎之海外文化
長崎統計要覽
メキシコ事情

圖書館書目録

愛知縣都市計畫概要外一
名古屋市中區役所
統計年報外一
朝日新聞外一
山形縣内圖書館狀況
大正總行錄
忍寄遺稿
主要貨物狀況
大震災善後報告書
帝國學士院一覽外一
名古屋市中區役所
愛知縣氣象年報
區勢一覽
獸疫調査所報告 九號
ニエーランド
新潟縣天産誌
縣治綱要 外一
榮部帝大一覽
理學教科書 外一
大正市統計書
五等文庫一覽
農林水利交通事件の實例



統計上より見たる 名古屋図書館

出納員 伊藤 二一君

昨年四月以来 閲覧者が如何に本館を利用するかに就て之を統計上より見るに...

先づ館内閲覧状況に就て見るに 大正十四年度より大正十五年度の方が、比較的幾分増加の傾向を示して居る...

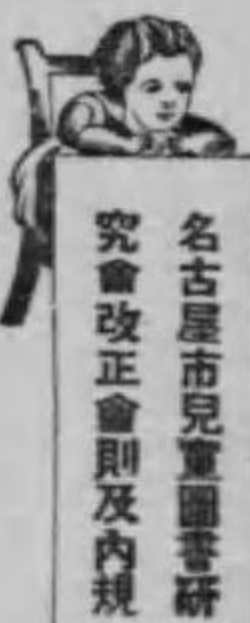
開覽者を職業別より見るときは 館内閲覧者の四割三分が學生、二割一分が商工業者...

子に比して登録者の少きは當然なるべきし、男子と女子の割合が、十三人對一人とに餘りになさけない感じがある。

婦人閲覧者を職業別より見れば 學生がその五割内外を占め、無職業者が三割、教育家宗教家が二割、其の他が商工業者、官公吏、記者著述家、雜業者等の順位となる。

上述の割合が四季を通じて千端一律でないのは當然の事で、即ち毎年八月及び四月は、比較的閲覧人数が僅少である。之は八月は各方面の學校の暑中休暇、四月は學年試験の済んだ後で、學生が稍減少するからであらう。

次に館外携出閲覧状態に就ていへば 昨年四月開始以後、月と共に利用状態が擴大されて居る。統計に依ると開始當所の四月は、總人員三三九人、以後毎月急激に増加して、初年度末即ち本年三月末には、二八九七人の多數を數ふるに至つた。



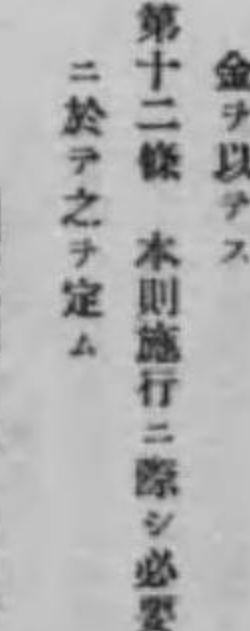
名古屋市兒童圖書研究會則

- 第一條 本會は名古屋市兒童圖書研究會と稱ス
第二條 本會は兒童圖書ヲ調査研究シ其優良ト認ムルモノヲ公表推薦スルヲ目的トス
第三條 本會ハ本會ノ目的ヲ達成スルモノニシテ本會員ノ紹介ニヨリ幹事會ニ於テ認メタルモノヲ以テ會員トス
第四條 本會ノ事業ハ左ノ如シ
一、兒童圖書研究
二、優良圖書選定並ニ公表
第五條 本會ハ事務所ヲ當分ノ内市立名古屋圖書館内ニ置ク
第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
幹事長 一名 幹事 若干名 優良圖書選定委員 若干名 調査委員 若干名
第七條 幹事長幹事及優良圖書選定委員ハ總會ニ於テ選舉シ調査委員ハ會員中ヨリ幹事長之ヲ推選ス
第八條 幹事長ハ本會事務ヲ總理ス幹事ハ幹事長ノ指揮ニヨリ會務ヲ處理ス調査委員ハ兒童圖書ノ調査研究ヲ爲シ優良圖書選定委員ハ優良圖書ノ選定ヲナススルコトヲ得
第九條 役員ノ任期ハ總ベテ滿一ヶ年トス(但シ再選スルコトヲ得)
第十條 總會ハ毎年一回之ヲ開キ庶務會計ヲ報告ス優良圖書選定會ハ毎月一回之ヲ開キ調査委員會ノ報告ヲ參考トシ優良圖書ヲ選定ス調査委員會ハ每週一回之ヲ開キ兒童圖書ヲ精査研究ス
第十一條 本會ノ經費ハ會員ノ支出並ニ特志者ノ寄附

以て占められて居たが、時には教育者、商工業者等もたまさか見受けられた。
抑て、これ等館内及び館外携出閲覧者を閲覧圖書別より見る時は、大体左の通りである。

Table with columns for Department (部), Percentage Ratio (百分比), and Total (總計). Rows list various categories like 雜書, 雜誌, 新聞, etc.

調査委員會内規
一、調査委員ハ兒童圖書ノ全般ニ亘リ之ヲ精査研究ス
二、調査委員ハ市立名古屋圖書館ノ兒童圖書研究室ニ備付ケタル圖書ニ就キ各自適宜調査研究ヲ遂ケルモノトス。
三、調査委員ハ毎月第二火曜日午後四時ヨリ市立名古屋圖書館ニ於テ各自ノ調査研究ノ發表會ヲ開ク
四、調査委員會ハ火曜日發表會ノ内容ヲ幹事長ニ報告スルモノトス。
五、調査委員會ニ正副委員長ヲ置クコトヲ得。



優良圖書選定會内規

- 一、優良圖書選定會ハ毎月第一土曜日市立名古屋圖書館ニ開會ス。
二、優良圖書選定委員ハ調査委員會ノ報告ヲ參考トシ之ヲ比較研究ヲ爲シ優良圖書ヲ選定ス。
三、本會員ハ隨時優良圖書選定會ニ出席シ意見ヲ述ブレコトヲ得ルモノトス。
四、優良圖書選定會ハ幹事長ヲ座長トス。

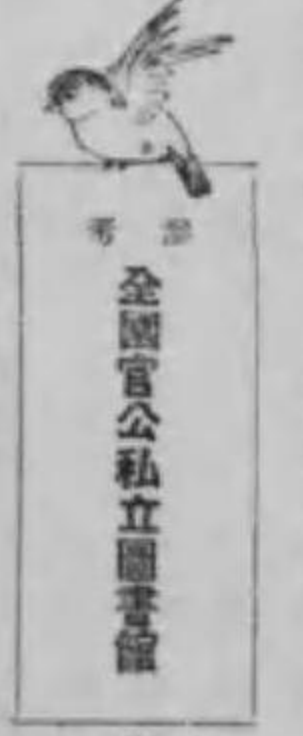


Table with columns for Year (年次), Public (官公立), Private (私立), Total (計), and Staff (職員). Rows show data for 大正十四 and 大正十五年.

